

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 7月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202114
法人名	有限会社 アートプロジェクト
事業所名	グループホーム 清水興津の家
所在地 (電話番号)	〒424-0212 静岡市清水区八木間町1846 Tel 054-360-4700

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年5月12日

【情報提供票より】(平成20年5月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	9 人, 非常勤 34 人, 常勤換算 8人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4)利用者の概要(平成20年5月 12日現在)

利用者人数	11 名	男性	5 名	女性	6 名
要介護1		名	要介護2		4 名
要介護3		4 名	要介護4		2 名
要介護5		1 名	要支援2		名
年齢	平均	81 歳	最低	65 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	青木内科クリニック、大塔歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

清流「興津川」近くに建てられたホームは、近くに公園や遊歩道もあり非常に環境に恵まれている。この恵まれた環境の中で「ゆったりと」「自由にありのまま」「仲間と一緒に暮らす」ことをグループホームの生活として捉え、多くの若い職員が日々のケアに取り組んでいる。職員は若く介護の経験は少ないが、介護の仕事が好きでこの道に入った者が多く、介護にかける意気込みは他のホームとまったく見劣りはしない。むしろ若者が持つバイタリティと活気が感じられ、非常に明るい雰囲気ホームが作り出されている。また、管理者の信望も厚くまとまりのあるホームであるので、これからは地域密着型を目指したホーム作りを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 初回の外部評価である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価に対する意識、目的の理解が十分でなかったため、今回の自己評価の実施に当たっては、管理者自身による評価であって職員全員による評価が行われていない。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、18年9月に1回開催した以降開催されていないことから、6月に開催する手筈となっている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等が訪問された場合は、近況報告を話した中で意見・苦情等を聴取するようにしているが、ほとんどの利用者は半年未満と入居年数が浅いためか意見等を反映するまでには至っていない。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事などに利用者と出来るだけ参加したいとして、自治会に加入しているが、回覧板等による行事の情報が回ってこないなど、地域からの協力が得られていない。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念をそのままホームの理念としていたが、3月に職員の大幅な入れ替わりがあった機会を捉え、職員全員による討議により、地域とのふれあいの中での生活を支えるケアを謳った理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具体的に実践するために毎月目標を定め、職員一人ひとりが理念を実践できるよう取り組んでいる。4月の目標「興津川の清流のほどり、自然とアットホームな暮らし」		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事などに利用者と出来るだけ参加したいとして、自治会に加入しているが、回覧板等による行事の情報が回ってこないなど、地域からの協力が得られていない。	○	過去のことに拘らず、自治会の役員、地域の住民の理解を得るため運営推進会議の充実、市の関係部所への働きかけ、リサイクル活動や清掃等への参加、近隣の保育園・学校等との交流、施設行事へのお誘い等積極的に取り組まれることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価することの意義、目的の理解が十分でないため、自己評価するに当たって館長が一人で作成している。	○	評価は一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直し等が可能となり、ホームの質の確保に最大限に活かしていくことが出来ることから、計画的・継続的に取り組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、18年9月に1回開催した以降開催されていないことから、6月に開催する手筈となっている。	○	開催に当たっては、報告や情報交換にとどまらず、話し合いを通じて会議メンバーから率直な意見や地域との交流が得られるように働きかけをすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の生活保護の申請、その他届書等提出の際に市の担当部所に出向いたり、市の職員もホームに訪れてくれるなど、お互いに連携を図るように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月定期的に請求書や預り金記録シートを送付する際、日々の暮らしぶり等を報告している。また、家族等の訪問時においても日々の暮らしぶりや健康状態などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が訪問された場合は、近況報告を話した中で意見・苦情等を聴取するようにしているが、ほとんどの利用者は半年未満と入居年数が浅いためか意見等を反映するまでには至っていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・交替によるリスクを出来るだけ少なくするため、どの利用者にも対応できるよう、担当を固定せず全員で介護を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規程の中で、採用時研修、管理者研修、院内学会等の研修を定められているが、ほとんどの職員が入れ替わったため、目下計画に沿った取り組みができるように努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者とは、行政が実施する管理者研修や会合の席において情報交換は行っているが、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携とはなっていない。	○	ホームのサービスの質の確保のためには、他法人の同業者との交流や連携が不可欠であることを認識し、同業者とのネットワークづくりや勉強会等の取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族によるホームの見学には細部にわたり話し合った後、利用者本人にホームの日常生活の雰囲気を見てもらい、適性を見極めて入居を決めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や経験則に照らした関係づくりに配慮し、利用者本人から学んだり、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや、日々のかかわりの中での利用者との会話や表情などから、希望や思いを把握できるように努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	若い職員が多いため、職員間での活発な意見やアイデアが介護計画に反映され、利用者本位に活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的介護計画を見直しているほか、利用者の変化に応じて随時見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームとして、出来る限りの多機能性を活かしたサービス(外出、買い物等)を心掛けて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の半数の方が協力医の他、本人やご家族が希望するかかりつけ医以外は協力医による受診となっている。また、協力医による往診もあり、常に医療機関と連絡が取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に利用者が終末期を迎えられた経緯があり、重度化した場合の対応のあり方、また、医療処置の対処の仕方についても職員全員、及び関係者が話しあっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員に対してプライバシーの確保を、徹底させている。また、職員の言葉かけ、記録等の個人情報の取り扱いについては配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らし中で、出来る限り一人ひとりの希望を聞き、柔軟に見守りながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事の準備や片付けをしている、その中で、いつも明るく、楽しく、笑顔で接するように心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴室が大変広く、開放的な作りになっており、仲の良い方とかがご夫婦同士で、入浴を楽しめるよう職員全員で支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみながら生活出来る様、本人が得意とする事や、その人が力を最大限発揮できるように、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感が感じられる環境なので、一人ひとりの希望に応じて散歩や、買い物等など本人に合わせた外出の支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普段から、鍵を掛けない習慣を職員全員が理解しており、常に利用者の安全を最優先し、自由な生活を送れるよう、支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自の災害訓練は実施しているが、地域の人達や、自治会等に協力が得られていない。	○	地域の協力体制については、自治会にお願いしたり運営推進会議で協力を呼びかけるなどの対応が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった栄養摂取量や水分補給を、常にチェックしており、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって、家庭的な雰囲気を感じ取れるような空間づくりを、心掛けている。また、川からの風や音などを取り入れて季節感を味わうように、居心地よく生活していかれるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が今まで使い慣れたものを持ち込んでおり、自分なりに生活感を楽しむように、工夫をしている。		